

## 事業実施報告書

1 事業の名称 インド人 学生 受け入れ

2 実施時期及び実施期間  
2011年10月28日～11月2日

3 実施場所  
広島市内

4 実施主体 ナマステ～INDIA

5 事業の目的 インドと広島との相互協力と平和学習、  
相互交流

6 実施内容 (箇条書き) 広島平和文化センタースタッフ・リバー氏との会見、  
平和公園、資料館での平和学習、ホームステイ、  
国際交流の祭り『ハコセるハ』に参加、市民と交流、  
市内の日本文化を学習、被爆体験の聞き取り、  
インドでの活動報告と交流会、日本文化体験(お琴)

7 参加人数又は派遣人数 (国外に派遣した場合、広島市民の人数も)

約30人～40人くらい

8 実施効果 (箇条書き)

- ◎ インドに帰る際、学校などで平和学習の成果について発表できるよう、DVDや本、折り鶴などを持ち帰った
- ◎ 日本文化(縮景園、広島城)にも興味を持って取り組む、お琴体験では習った曲をその場で発表してくれた
- ◎ 広島市内の平和活動グループとの交流や、市民との交流ができた、インドについて深く知るきっかけを作ることになった。

### 事業実施内容及び所感文

事業名: インド人学生受け入れ

団体名: ナマステ〜INDIA

実施時期及び実施期間: 平成23年10月28日(金)~平成23年11月2日(水)  
(6日間)

#### 実施内容:

日 程	場 所	交流・協力活動名	内 容
平成23年 10月28日(金)	平和公園	平和学習	平和公園内の碑や 記念資料館の見学。 学習
10月29日(土) 10月30日(日)	中央公園	国際交流 市民との交流	『ハ・あせるハ』に参加。 平和グループや市民との 交流をした。
10月31日(月)	市内 国際会議場	日本文化体験 インド活動報告 市民との交流	縮景園、広島城を見学 お琴の体験 インドの活動報告をし交流した
11月1日(火)	資料館 午後 フリータイム	平和文化センター 理事長とミーティング	インドの平和活動の実態に ついて話し、今後のインドと 広島との相互協力の方向に ついてミーティングした。
所 感	<p>インド国内での原爆関連の事実が、特に若者世代に 知られていないことを痛感した。 ハラスとインドの関係が少く、良好な関係の 中国との危機感強くおられる人々の平和への関心は 大きい。現地の原爆展示会や何ゆえに関心をひく催し は非常に必要だと思った。</p> <p>広島平和文化センター理事長スティーブ・リバー氏との会見で インドネシア州から来たトマス・マニエ氏(国際自由宗教連 盟元会長)が、最新の平和市長会議の資料を得て、インド内の知 合の市長を訪ねることになった。これらの機会が得られ、これ をお手伝いして、よかった。</p>		

平成23年10月28日から11月2日まで

インド国ケーララ州トーマス・マシュー氏とジャンピ・グッテさんを迎えて ナマステ～IMDIA写真活動報告  
(平和学習、国際交流祭りへの参加、ホームステイ、インド交流会、広島平和文化センター理事長とのミーティングなど)



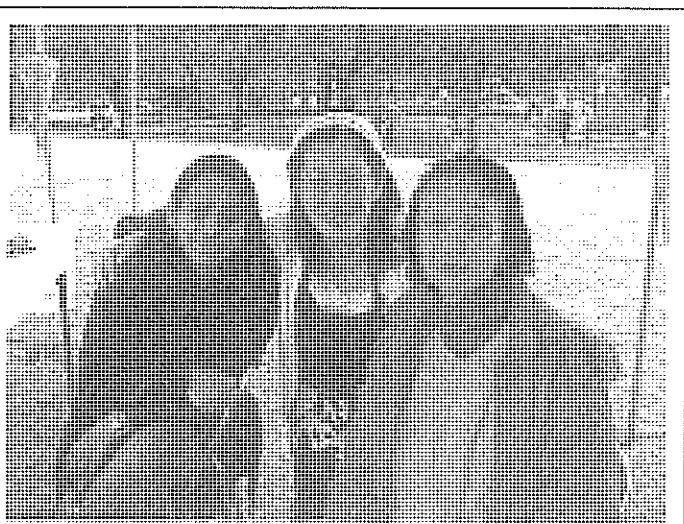
広島平和記念公園にて



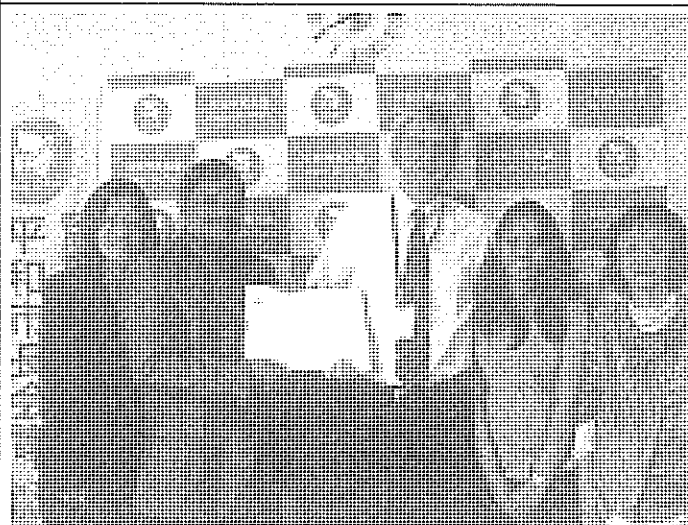
国際会議場地下にて、



国際交流祭り「へあせろべ」広島中央公園にて。バザールにて「シーズ・インディア」の聾啞者の作ったポストカードを売る。



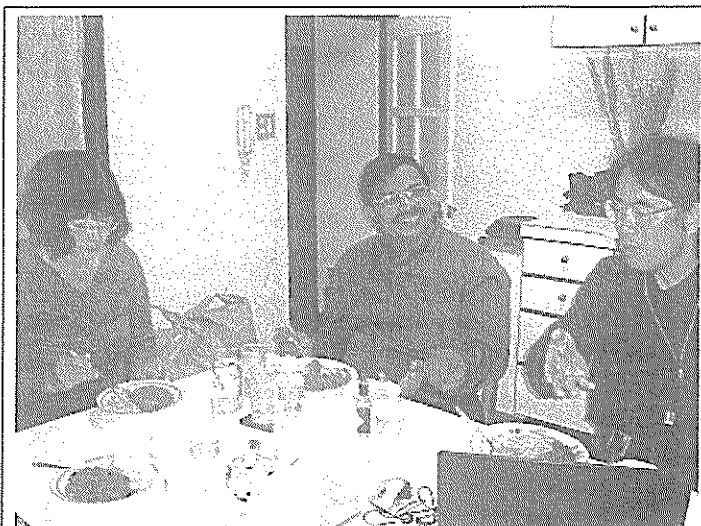
国際交流祭り「へあせろべ」にて。



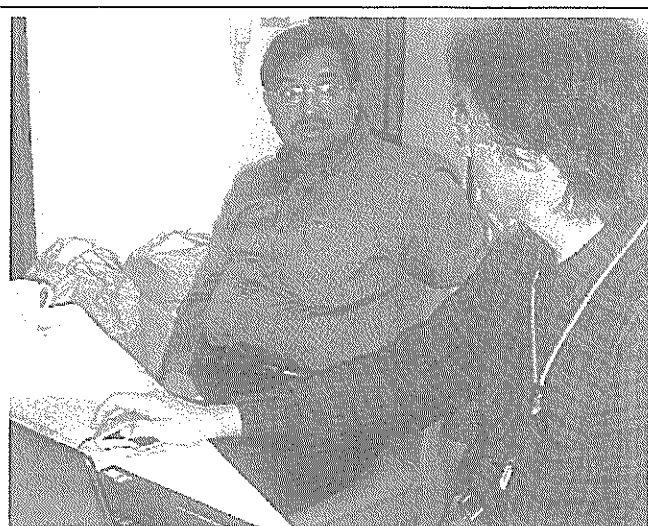
広島平和文化センター理事長とのミーティング。



広島名物お好み焼きを食べる。



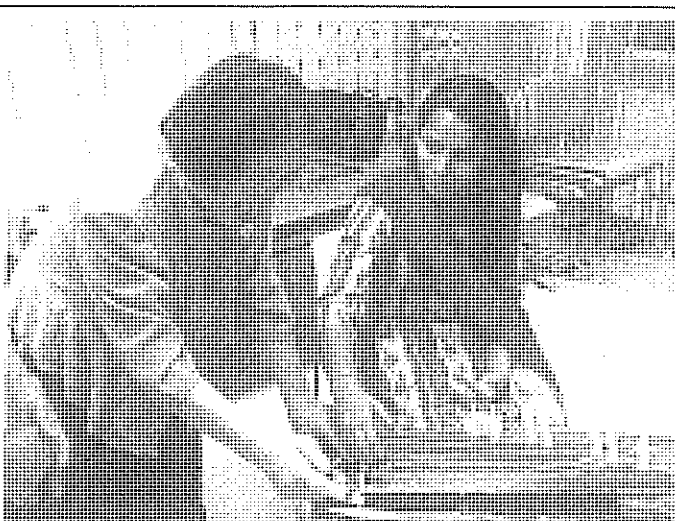
ホームステイ先での晩御飯。



コンピューターを見ながら、訪問者にインドについての説明をするトーマス。



インド交流会、国際会議場3階研修室3にて。ウエルカム琴演奏をするのは河野五十鈴先生とそのグループ



河野先生に教えられ練習するジャンビ。このあと「さくら」を皆の前で演奏する。



プロジェクターを使って「シーズ・インディア」の活動を説明するトーマス。



インド交流会の最後の記念写真。

「アサヒ」  
201  
スロー



折鶴を学ば

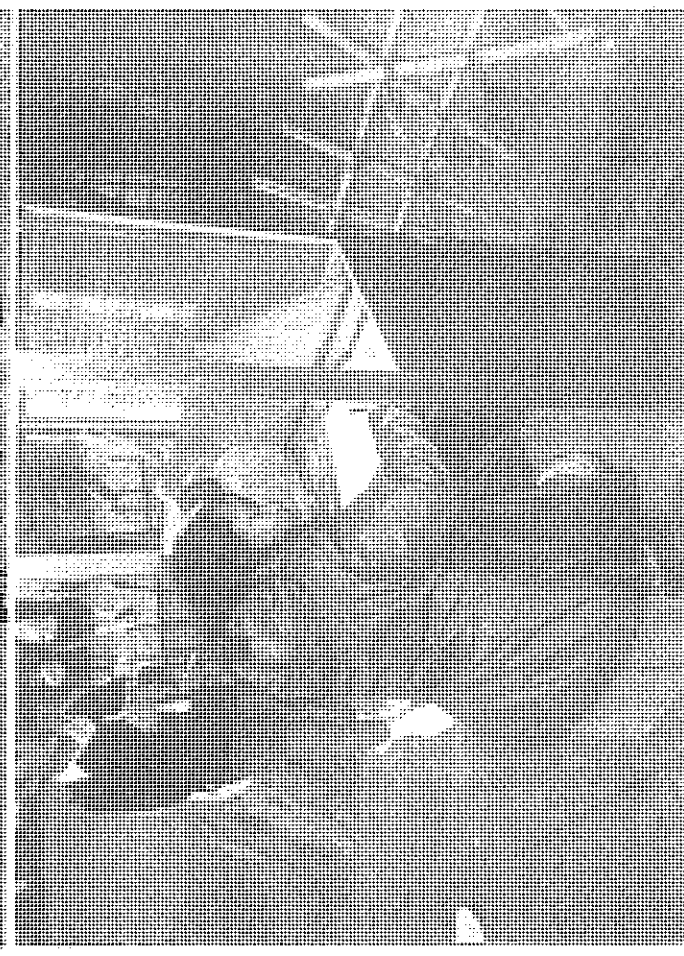


「アサヒ」  
201

平和学習



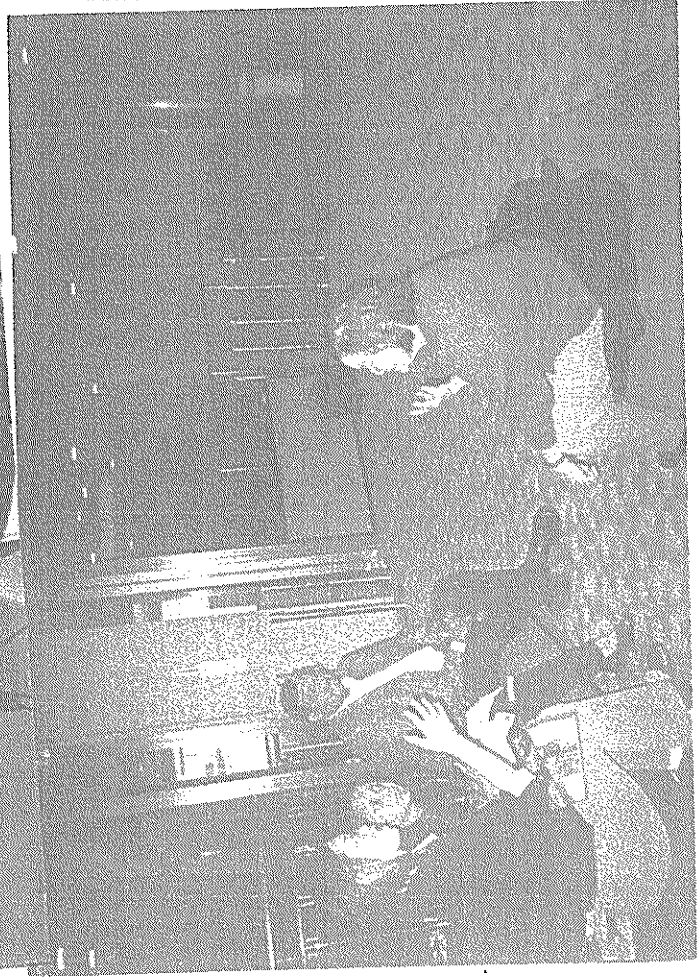
ホム入行



平和学習



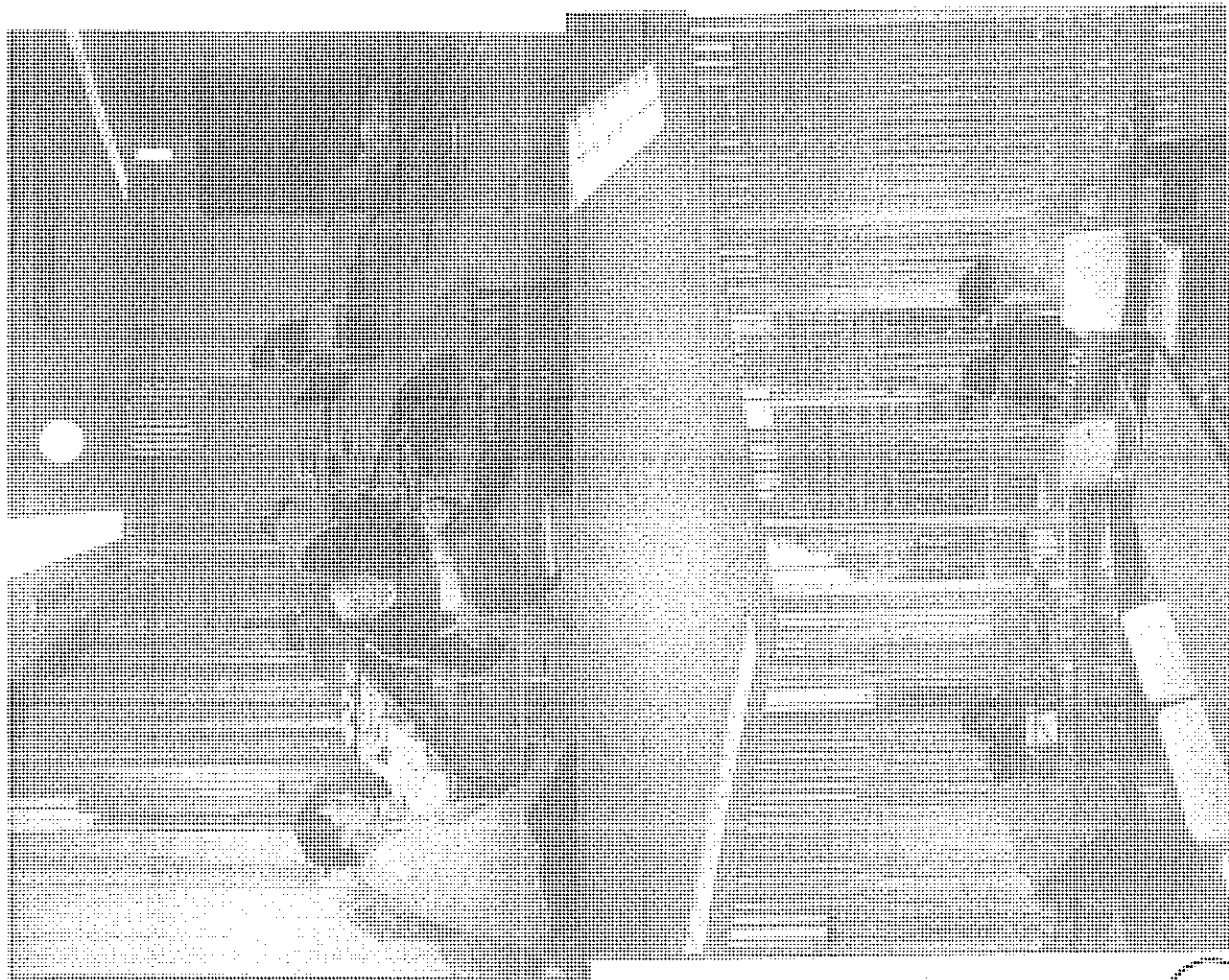
右琴体験



被爆証言を聞く



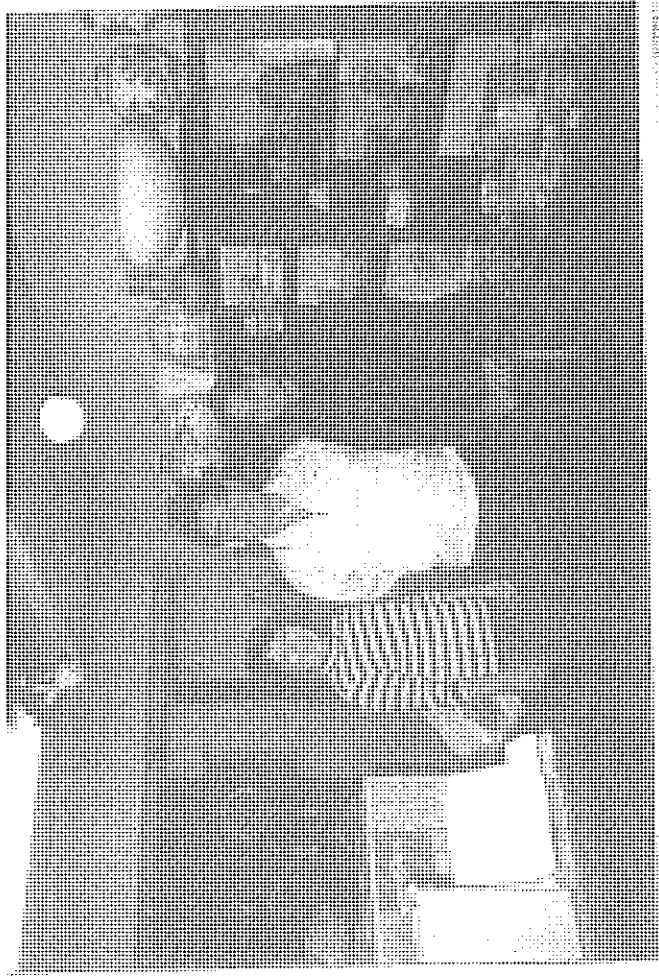
右琴体験



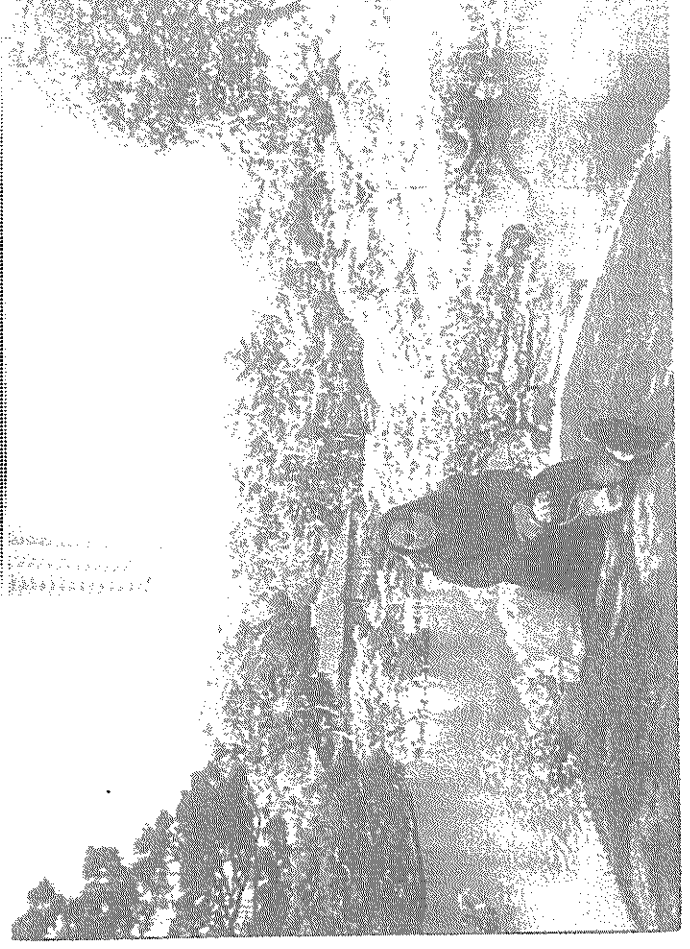
10/31 (A) 交流会・日本文化体験 (お琴)



ホムキム



平和学習



日本文化にふれる